

令和元年度 第2回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

日 時：令和2年3月11日（水）13:00-16:00

場 所：国立情報学研究所 19F 会議室

議事：

1. 前回議事要旨確認

喜連川委員長から、資料2に基づき説明があり、了承された。

2. 次期ネットワークについて【審議事項】

漆谷委員（ネットワーク作業部会主査）から、資料3に基づき、次期ネットワーク構想のうち「拡張DC選定方針と設置候補拠点案」、「ネットワークアーキテクチャ案」、「加入機関向けラック・アクセス回線の共同調達案」の3点を中心に説明があり、次の質疑応答があった。

- ・ 拡張DCについて、DC設置が決定するのはいつ頃か。
 - 本会議でご了承頂き次第、実現に向けて推進したいと考えている。予算内におさめるように努力しつつ、文部科学省にもご相談しながら実現に向けて調整し、加入機関には早めにご説明できるようにしたい。
- ・ NII-SOCSは来年度中に現在のプロジェクトが終了し、その後、次期NII-SOCSプロジェクトがスタートする予定であるが、その場合、次期ネットワークの開始と1年間ずれが生じるため、NII-SOCS側はその1年間は助走期間として、次期SINETとともにスタートする等の構想を考慮して頂くため、NII-SOCS側の意見を申し上げる場が必要であると考えている。
 - セキュリティ作業部会からの意見を取り入れ、密に連携をして進めたい。
- ・ 加入機関向けラックの共同調達について、BCPのこともあり、機器設置場所のニーズを把握したく意見をお聞かせ願いたい。
 - 大規模なBCPの場合、通常のSINETラック等で賄える規模でないと考える。システムの一部だけ小規模にBCPとして置ける形でも価値があると思う。

その後、本案に沿って拡張DCを整備することについて了承された。

3. 学術情報ネットワーク加入細則の改正について【審議事項】

事務局から、資料4に基づき、内閣府における「国立大学法人等の研究力の分析に資する標準化データ作成を目的とした、大学等からのデータ収集への協力のため」の事由により加入を認める改正方針について説明があり、以下の質疑応答があった。

- ・ 資料内の「別表（第3条関係）」内の追加事由に記載の「協力のため」とは内閣府とSINETのいずれが協力の主体となるものか。

- ▶ SINET が内閣府に協力を行うものである。
 - ・ 別表内の事由における主語が統一されていない印象である。
- その後、本件については、別途修正案を提示し後日審議を行うこととした。

4. セキュリティ運用連携サービス利用規程等の改正について【審議事項】

岡部委員（セキュリティ作業部会主査）から、資料 5 に基づき、NII-SOCS における研究用データの研究者への提供に向けて、情報提供の明確化のための利用規程・利用細則の改正について説明があり、以下の質疑応答があった。

- ・ 利用細則第 7 条 3 項における検知情報の保存期間を 3 か月と定めているのは何故か。
 - ▶ OECD のガイドラインに則って制定している。期限を定めて削除を行う方が運用上望ましい。それ以上を求めるのであれば NII-SOCS 以外のセキュリティ対策を各機関に求める方針としている。
- ・ 利用規程第 15 条は各機関の共用に付すため「情報共有」の表現で、第 16 条は個人が利用するため「情報提供」の表現としているのか。
 - ▶ ご認識の通りである。

その後、本改正案について了承された。

5. 学術無線 LAN ローミング基盤サービス加入規程の改正について【審議事項】

事務局から、資料 6 に基づき、国立情報学研究所の他サービスの規程と文言の統一、また表現の修正を実施するための利用規程の改正について説明があり、本改正案について了承された。

6. ネットワーク作業部会報告

漆谷委員（ネットワーク作業部会主査）から、資料 7 に基づき、ネットワーク作業部会において次期ネットワークについて審議し、本会の審議事項に反映した旨の報告があった。

7. クラウド事業・作業部会報告

合田委員（クラウド作業部会主査）から、資料 8 に基づき、以下の事業報告があった。

- ・ 学認クラウドゲートウェイサービス・オンデマンド構築サービスの機能強化
- ・ クラウド実証実験報告（天文台・ALMA）
- ・ SINETStream の開発、一般公開

また、クラウド作業部会において、KEK・東京大学におけるクラウド活用事例紹介が実施された旨報告があった。

8. セキュリティ事業・作業部会報告

岡部委員（セキュリティ作業部会主査）から、資料 9 に基づき、セキュリティ作業部会の実施報告および以下の事業報告があった。

- ・ NII-SOCS インシデントマネジメント研修の開催
- ・ 参加機関ミーティングの開催
- ・ 研究用データの提供に関する通知および提供対象となるデータ、利用約款類

うち、研究用データの提供に関する通知については今年度末に参加機関に配布予定。本内容については、本会で一旦提示し、後日意見を求めることとした。以上の報告等を踏まえ、以下の質疑応答があった。

- ・ NII で払い出している eduroam 接続用の IP を NII-SOCS の監視対象に含めている機関はあるか。
 - 現在該当機関はない。当該セグメントは監視対象に含まれていない。
- ・ 研究終了後もエビデンスデータの保存期間が定められている場合、「研究終了時の管理体制チェックリスト」に記載された内容と整合性を取るべきか。また、加工データについてどこまでを保存対象とするのか。
 - 提供データについては、研究データの保存期間に関わらず、NII が消去を命じた場合に従わせる。研究者に管理意識を持たせるために作成した文書であるため、文言について指摘があれば頂きたい。

9. 情報セキュリティポリシー推進部会報告

曾根委員（高等教育機関における情報セキュリティポリシー推進部会主査）から、資料 10 に基づき、統一基準に則った形でのサンプル規定集の更新と公開（2020 年 2 月 12 日に公表）、およびセキュリティ教材の整備について報告があった。

10. オープンサイエンス事業・作業部会報告

山地委員（オープンサイエンス作業部会主査）から、資料 11 に基づき、GakuNin RDM の検索等機能強化や海外利用の促進等の事業報告があった。

また、オープンサイエンス作業部会における各サブワーキンググループの活動状況について、参加機関における機能ニーズの調査や研究データ管理支援者におけるスキルの標準化にかかる取組の報告があった後、以下の質疑応答があった。

- ・ 大学全体で GakuNin RDM 導入に向け動いているため、役員向けの説明もいただきありがたい。
- ・ 各機関の導入状況について情報共有を活発に行ってはいかがか。
 - サブワーキンググループからは状況を伺っているが、グループに含まれない機関からも実施したい。
- ・ 情報処理学会にもオープンサイエンスの研究グループが出来た。今後とも学会と連

携を深めて頂きたい。

- ・ 国立大学法人情報系センター協議会 (NIPC) においてオープンサイエンスも取り扱いたく、プッシュいただきたい。

11. 学術認証推進室事業報告

坂根学術認証推進室長から、資料 12 に基づき、以下の事業報告があった。

- ・ 学認：e-Rad との連携、実施要領・技術運用基準の改定（「機関の組織」における IdP 設置申請の許可）
- ・ UPKI 電子証明書発行サービス：運用業務の変更と組織確認の厳格化、Safari における証明書の有効期限対応への検討
- ・ Eduroam：加入規程および技術基準・運用基準の改定

12. 2019 年度学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

事務局から、資料 13 に基づき、NII サービス説明・相談会、学術情報基盤オープンフォーラム、その他 TOPIC 等における活動について説明があった。

13. その他

田浦委員から、昨今の情勢を反映し、Google hangouts を用いた東京大学の遠隔授業システムについて説明があった。また、森委員からも情報基盤を活用した COVID-19 対応について名古屋大学の事例の紹介があった。

また、事務局から、次年度の委員委嘱について後日案内する旨連絡があった。

以上